

令和3年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告
(交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

資料2
令和4年度第1回逗子市まち・ひと・しごと
創生総合戦略等推進会議
2022年(令和4年)8月5日

No	① 交付対象事業の名称	② 総合戦略における位置付け	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値			⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑧ 事業実施から得られたノウハウ等	
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値 (三浦半島4市1町)	実績値 (逗子市)	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由		
1	三浦半島魅力深化プロジェクト推進事業	基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育て」の希望をかなえる 基本目標2「逗子市への新しいひとの流れをつくる」 基本目標3「逗子市に暮らしながら「しごと」の希望をかなえる」 基本目標4「魅力的で、誰もがいつまでも安心して健康に暮らせるまちづくりを推進する」	762,318	指標① 三浦半島地域4市1町の生産年齢の社会増減数	-762	人	令和5年3月	-44人	175人	-	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	「交流人口の増加に寄与する取組みの充実」「地域産業の活性化に資する事業の推進」「魅力的な活動あふれるまちづくりの推進」及び「自然を生かしたまちづくりの推進」に関するKPIに直接的効果を上げる要因となった。	事業の継続	交流人口の増加に効果的であるため。	別添のとおり
指標② 鎌倉市を除く3市1町の観光客消費額	28,901	百万円	令和5年3月	※未確定 (8月中旬頃把握予定)	744百万円											
指標③ 県民ニーズ調査における「現在のところに住み続けたい」と思う人の三浦半島地域の割合	70	%	令和5年3月	59.1%												
指標④ 事業を通じたイベント参加者数	153,000	人	令和5年3月	288,287人	6,771人											
指標⑤																

■表の見方

- ⑤「本事業終了後における実績値」＜事業効果＞選択肢
- ・地方創生に非常に効果的であった (指標が目標値を上回った場合)
 - ・地方創生に相当程度効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した場合)
 - ・地方創生に効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなどの場合)
 - ・地方創生に対して効果がなかった (実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合)

- ⑦「実績値を踏まえた事業の今後について」＜今後の方針＞選択肢
- ・追加等更に発展させる (事業が効果的であったことから取組みの追加等さらに発展させる)
 - ・事業内容の見直し(改善) (事業内容の見直しを行う(または、行った。))
 - ・事業の継続 (特に見直しをせず事業を継続する)
 - ・事業の中止 (継続的な事業実施を予定していたが中止した)
 - ・予定通り事業終了 (当初予定通り事業を終了した)

■確認いただく内容

- ⑥「外部有識者からの評価」＜事業の評価＞選択肢
- ・総合戦略のKPI達成に有効であった
 - ・総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

＜外部有識者からの意見＞
記載内容例:事業の良かった点が何か 等
総合戦略において当該事業が位置付けられている具体的施策に関するKPIに直接的効果を上げる要因となったことを記載。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	企業誘致・起業促進事業①（創業支援に係る専門家派遣事業）
担当課	経済観光課
実績	2021年度 Youtubeを活用したオンデマンド創業スクールを開校し、104人（女53人、男51人）の参加があった。 （逗子市商工会への補助事業）
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した支援手法 ・コロナ禍により生まれた働き方の変化についての講義、支援 ・ロールモデルの蓄積及び発信を行うことでの創業機運の醸成
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のまん延以前のスクールでは、令和元年度で58人（女33人、男25人）の参加があったが、令和3年度はオンデマンド受講形式としたことで、さらに参加者が増え104人の参加があった。時間や場所の制約に縛られないオンデマンド形式による受講により多くの受講生から好評を得られたため、一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。今後はそのノウハウを生かし、創業機運を高めるため身近な創業事例を先輩創業者に発表してもらい創業機運醸成事業やスクール後の情報交換会について、オンライン形式で実施し交流の機会を設けていくことについても検討している。 ・ビジネスプランの確立段階、あるいは創業直前・直後の方を対象に創業に向け様々な専門家による個別支援や商工会経営指導員等による支援に応じられるようにしている。特に、コロナ禍により企業も変革を求められ、事業継続のために企業の複業や業態の変化等が求められていることから、新たな事業転換の支援も行っている。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	企業誘致・起業促進事業②（企業版ふるさと納税に係る企業紹介に関する委託料）
担当課	企画課
実績	企業版ふるさと納税募集サイト、企業紹介を利用して受領した寄附が4件（寄附額400,000円）あった。
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税を行う企業の業態、規模等の情報の蓄積 ・企業誘致にむけた、関係法人増加
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税の企業紹介等を利用することで、企業版ふるさと納税を行っている企業の業態や、規模等の情報が蓄積され、今後の寄附募集にあたり、アプローチする企業選定のための一助とすることができた。 ・企業誘致へむけ、寄附を通じた関係法人の増加を図ることができた。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	小坪海浜地域の活性化事業（小坪海浜地域活性化事業補助金）
担当課	経済観光課
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刺網漁業体験（10名）、わかめ収穫体験イベント(12名) ・ カーステイ利用実績24件、カーステイ（車中泊）モニタリング体験会（10名） ・ 船上市場・わかめ収穫祭開催 ・ 観光遊漁船クルーズ（57名） ・ 漁業者を対象としたアンケート及びヒアリング、漁港利用事業者との意見交換会等に係る漁業協同組合活性化アドバイザーとして有識者2名を派遣依頼
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港の活用や漁業と観光の組み合わせによるイベントの企画立案、実施運営 ・ 活性化に向けた課題の共通認識や活性化の方策の検討
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種イベントの実施により、漁港の活用や漁業と観光の組み合わせによるイベントの企画立案及び実施運営に関するノウハウを蓄積することで、小坪漁業協同組合が自立した定期的な実施に向けた足掛かりとなったと考えている。 ・ 有識者2名による漁業者を対象としたアンケート及びヒアリングの実施、漁港利用事業者との意見交換会等に係る漁業協同組合活性化へのアドバイスにより、組合内及び漁港利用事業者との課題の共通認識や活性化の方策の検討を実施することができ、次年度以降に向けた情報を蓄積することができた。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	逗子海岸保全活用事業（逗子海岸保全活用事業補助金）
担当課	経済観光課
実績	2021年度 ワッシュョイ！ずしかいがん 6企画488人 「磯遊び113人」「水辺の安全教室16人」「サマーフェスティバル248人」 「海で働く人々講演会42人」「ビーチクリーン&海のマイクロプラスチック22人」「春休み海遊び47人」
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や事業者と連携した企画立案、実施運営 ・新型コロナウイルス感染症流行下における新しい生活様式への対応
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワッシュョイ！ずしかいがんサマーフェスティバルは、9企画募集したが、途中新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う緊急事態宣言発出を受け、5企画は中止とした。 ・NIGHT WAVEは企画・検討したが、新型コロナウイルス感染症のまん延状況を踏まえて中止とした。 ・中止となった企画もあったが、新しい生活様式に即したイベントの実施方法を事務局のみならず、関係団体等と意見交換を重ね、対策を検討してできる限り実施できたことは、コロナ禍で一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・講演会や水辺の安全教室では、逗子海岸に安全に親しむため、水辺の専門家を招き、大人だけでなく子どもたちにも講義を行った。特に講演会では、逗子海岸にゆかりのある事業者が集まって、クロストークを行い、将来に向け安全な逗子海岸を実現するために各事業者ができること、また連携できることについて話し合いをすることで、事業者同士で安全の必要性についての共有とノウハウが蓄積されたものと考えている。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	マリンスポーツによる地域ブランディング事業②（ジュニアヨット・ウインドサーフィン教室運営補助金）
担当課	文化スポーツ課
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアウインドサーフィン教室 5 回実施、延べ66人参加（前年度比 2 人減） ・ジュニアヨット教室（新型コロナウイルスの影響により中止）
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の立案方法及び実施方法 ・地域団体との連携（マリンスポーツ団体、事業者等）
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へのスポーツへの関心を高めるため、ジュニアウインドサーフィン教室を開催し、マリンスポーツの普及を図ったことにより、ジュニアを対象とした事業の実施方法についてノウハウを得られた。 ・海に面し、マリンスポーツを身近に楽しめる逗子市の魅力を発信する機会に繋がっている。 ・感染対策を講じつつ、指導の質を落とさずに安全に実施する手法を得られた。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	マリンスポーツによる地域ブランディング事業①（東京2020オリンピック・セーリング競技の江の島開催に伴うイベント開催経費）
担当課	市民協働課
実績	コミュニティライブサイトの開催を中止し、パラリンピック聖火採火イベント及びパラリンピック気運醸成にかかる絵画の展示会のみを開催した。
蓄積されたノウハウの内容	コンテンツは新しい取組みであったが、緊急事態宣言下の開催であり、ワークショップの実施が困難であったため、新たな開催手法等のノウハウ獲得には至らなかった。
事業実施から得られたノウハウ等	アール・ブリュットやエイブル・アートなどとも呼ばれる障害者アートに対し、市民の関心が高いことが感じられ、今後の生涯学習施策や文化振興施策の立案につなげることができた。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	逗子の魅力向上事業①（逗子の魅力向上事業補助金）
担当課	経済観光課
実績	2021年度 観光遊漁船クルーズ56人、小坪漁港船上市場300人、わかめ干し作業体験19人、わかめ収穫祭450人 逗子の魅力を探してウォーキング17人、逗子の山で遊ぼう13人、逗子旅カレンダーフォトコンテスト
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や事業者と連携した企画立案、実施運営 ・新型コロナウイルス感染症流行下における新しい生活様式への対応
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式に即したイベントの実施方法を事務局のみならず、関係団体等と意見交換を重ね、対策を検討して実施できたことは、コロナ禍で一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・小坪漁協との連携企画では、小坪漁港の魅力を発掘し、体感してもらうものとして実施した。普段なかなか接することのない漁師とのふれあいで小坪漁港の新たな魅力を引き出し、さらに小坪地域の活性化にもつながる手法を蓄積できたと考えている。 ・ウォーキングや山で遊ぼう企画では、市民団体連携のもと、逗子海岸以外の魅力を発掘し、体感してもらうものとして実施し、ウォーキングでは大人向け、遊ぼう企画では子ども向けに実施できたことは、新たな魅力を引き出し、一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・逗子旅カレンダーフォトコンテストは、観光協会と市の共催で実施し、市が逗子の魅力を市民を中心とした参加者から写真を募り、協会がカレンダーとしてまとめ発行し、販売また市内加盟店へ配付することができた。結果、協会と市の強みを持ち寄った連携が構築され、市民がフォトコンテストに参加することで逗子の魅力を再発見してもらうことに寄与し、また応募された作品をウェブ上（逗子フォト）で発信することで新たな逗子の魅力を伝えることができるなど、まさに市民発の、参加しやすい魅力発信の実践となったと考えている。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	逗子の魅力向上事業②（フェアトレード啓発事業負担金）
担当課	市民協働課
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレード×地産地消ランチキャンペーンの実施 参加店舗 18店舗 ・フェアトレード連続講座の実施 参加者延べ189名（全4回、オンライン含む）
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働による企画の実施、運営方法
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチキャンペーンの実施により、市内事業者に対しフェアトレードの取り組みの促進、店舗利用者にフェアトレードの普及啓発を行うことができた。 ・イベント実施における多様な広報方法の取得（公共施設ほか学校、フェイスブック、インスタグラム、図書館展示など） ・オンラインでの講座実施による手法の取得

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	新たなモビリティサービスの推進（モビリティサービスによる実証実験に係る経費）
担当課	環境都市課
実績	<p>逗子アーデンヒル地区におけるデマンド型乗合タクシー実証運行 （令和3年10月15日から令和4年3月31日まで）</p> <p>(1) 運行回数 209回（台）（1台あたりの乗車人数：1,498人） (2) 利用者数 延べ313人（出発便：131人、帰宅便：182人） ≪内訳≫300円チケット：268人、150円チケット：3人、チケットなし：42人 月曜日：60人、火曜日：55人、水曜日：55人、木曜日：62人、 金曜日：58人、土曜日：10人、日曜日：13人 (3) 収支 運行経費：433,000円（運賃：263,600円、運行管理費：169,400円） 利用者負担：80,850円（300円：80,400円、150円：450円）</p>
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路運送法第21条による乗合旅客運送に係る諸手続き ・地域公共交通会議の開催、運営及び諸手続き
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、交通事業者及び道路管理者等関係者の理解・協力により、期間を通じて安全に実証運行を実施することができた。 ・コロナ禍での実証運行ではあったが、自治会による需要喚起、アンケート実施、期間途中での運行スケジュール変更など、様々な工夫を重ねながら実施し、実証運行の成果として一定のデータ収集はできた。 ・利用者は特に60代以上の女性が多く、また母親が幼児と一緒に利用するケースもあった。これらの方は、想定していた利用者層である在宅主婦層で日中の時間の自由度が比較的高い方であり、“普段自家用車を運転しない方”、“運転に不慣れな方”、“運転免許を返納された方”の外出機会の創出に繋がり、継続した運行を期待する声も寄せられている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の実施を延期し、令和3年度の実施となったものの、感染拡大が収まらず、利用者層の拡大、利用者数の増加になかなかつながらなかった。 ・当初予定していた、自治会が運行主体となつての令和4年度中の本格運行は実現していないが、令和3年度に実施した実証実験の結果を踏まえ、自治会主体の持続可能な運行導入支援のあり方を、引続き自治会の皆様とともに検討していく。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	プラごみ排出抑制（プラごみ排出抑制対策支援負担金）
担当課	経済観光課
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・リユースカップの制作 280ml 1,200個、400ml 2,800個 ・啓発ランディングページ（ホームページ）の制作 ・啓発ポスター（A2・B4）の制作、海の家での掲示
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみ排出抑制のための啓発物品の制作 ・啓発用ホームページの制作 ・啓発ポスターの制作
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・リユースカップを制作し、海の家全店で使用することにより、プラスチックごみの排出抑制につながった。引き続きリユースカップを使用することで排出抑制効果が期待できる。 ・啓発用ホームページの制作により、海水浴客の多くが逗子海水浴場の情報を入手する海岸組合ホームページに海洋プラスチック削減に向けたメッセージを前面に打ち出すことで効率的な啓発に取り組むことができた。また、キャッチコピー及びメインビジュアルを今後の制作物等へ利用することが可能となった。 ・啓発ポスターの制作、海の家での掲示により来店客へ視覚的にプラスチックごみ抑制を呼び掛けることができ、リユースカップの使用以外にも来店客への意識啓発が可能となった。